

編集部より Vol.8

意識の転換と 自然法則



突然のメッセージ

ころころと麗しい声で鳴く虫たち。川原でいつものようにお弁当を食べていると、ふいに、頭の中に言葉が響いてきたように感じた。

「どうして人間たちは、こんなに簡単な事がわからないのか。」

なぜ文明の魔術に引っかかってしまうのか。

なぜ、自然の法を犯し、己も、またあらゆる生命をも失う事を続けるのか…。」

箸を止め、とりあえず、今聞こえてきた言葉をノートに書き留めた。それは虫からの問いかけだったのだろうか？ 再び箸を手に取りながら、「確かに、どうしてなのだろう…」とつらつらその言い訳を考え始めていた。

「毎日忙しくてそんなこと考える時間がないんだ」

「何がそんなに忙しいの？」

「現在のシステムを維持するのに、みんな忙しいんだ」

「そのシステムって、そんなに大切なの？」

「そりゃそうだ。そうしなければ食べていけないからね」

「自然が壊されて、食べられるものが無くなっても？」

「……………」

「じゃあ、どうすればいいと言うんだい？」

そこまで及んで、急に気がついた。つまり、現状を維持したいんだ、みんな。先の選挙結果を見ればわかるよね。

いったいどうしてだろう。こんなにあちこちで歪みが生じているのに!! いったいどうして？

現状維持の理由

少し考えてみればわかる事だった。誰だってリスクを犯したくないし、できるだけ安定を望んでいるんだ。自分だって、そうだ。子供たちがこの社会の中で、何とか良い生活をしてほしいと願っているのではないか。その良い暮らしとは、現状を引きずったその先にあるものだ。だから、ある意味、僕だって現状維持派ともいえる。それじゃあ、変わるわけないよね。自分から変えようとしなくて、どうして世界（すなわち自分の目で見ている世界）が変わるというのだろう。う～ん…。また振り出しに戻ってしまった。

この良い暮らしっていうのも、きっとどこかの誰かが提案したアイディアの一つにすぎないんじゃないか。メディアで宣伝されたライフスタイルや、親や世間が言うところの良い暮らしというイメージを信じ込んでしまっているだけかもしれない。ある意味洗脳されているのかもしれない。

少なくとも、僕らの周りには現状維持を促す情報ばかりあふれているのは間違いない。現状を変え、未来を生命にとって理想の状況にするようなたぐいの情報は、あまり見当たらないよね。だから、普通に生きていけば、たいていが現状維持しなくなっちゃうんじゃないかな。家庭ばかりでなく、会社や学校や

コミュニティー、社会全体がどこも押し並べてそうなのだろう。



現状のその先にあるもの

ところで、ちょっとだけ見方を変えてみたらどうだろう。僕たちが安定した暮らしだと思っている、この現状維持のその先にあるものが、虫たちが伝えてくれたように、もし人間の住めない、自然が破壊しつくされた、放射能たちこめる死の世界だったとしたら…。東南海地震なんてやつが来たら、ひとたまりもないよね。地震の揺れと津波で、原発だってたぶんダメになるだろう。想像したくないけど。それは、けっして大げさな事なんかじゃない。必死で作業している東電の作業員の方々には申し訳ないが、結局フクシマ原発だって根本的には何も解決していないじゃないか。

もしかしたら僕らには、未来を想像する力、その想像力自体が欠けているんじゃないかと疑ったが、そうじゃない。だって、何か文章を読んで少し心に膨らませたら、だれでも想像できるはずだから。想像できないのではなく、想像したくないのか？ 現実逃避？？ それとも、このまま今の繁栄が続いてほしいという希望的観測だけで生きているということ？

この難題を超えるにはどうすればよいのだろう。

最悪を想定し、最善を想像する

まずは、想像することだろう。このままいけばどうなるのかを。その最悪の状況を、恐れずに、冷静に考えてみる事だ。確かにそのまま悪いことばかり考え続けるのは良くないが、しっかりとした現状分析と未来予測は大切だ。3.11における原発事故だって、最悪の想定をゆるく見積もっていたがために、被害が甚大になってしまったと分析されていたではないか。同じ事が私たちに問われている。

肝心なことは、そこからスタートして、それを乗り越えるどんな未来を、次に心の中に想像するか、なのだ。そのイメージをしっかり望むものに置き換えることだ。

本当に求めているものは？

自分のことを考えてみてもそうだった。大きな組織の中で、このままだとどうなるか…、そうやって先が見えてしまったからこそ、自分の本当に望むものは何かを心に問い、ここまで来たように思う。

私たちはいったい何を本当は望んでいるのだろうか？ 経済を優先させ、お金を大切に思う気持ちの裏側には、何が隠されているのか？ 本当に皆、戦いたいと願っているのだろうか？ 敵国やライバル企業に勝利し、自分だけが儲ければ良いと、本当に思っているのだろうか。

みんなが本当に、本当に、求めているのは幸せではないだろうか。ただ、家族が安心して暮らせる平和で満ち足りた、そんなささいな日常ではないだろうか。モノやお金も大切に違いないが、地球が壊れてしまったら何の意味もない。地位や外見もそうだ。戦争が平和を生む事などありはしない。だまされちゃダメだ。

人間として生まれてきた幸せとは何だろう。もう一度胸に問いかけてみよう。

冷静に考えれば誰だってわかるはずだ。少なくともこのままじゃいけないって。

白紙の絵本に描かれる未来とは

じゃあ、どうする？ どんな未来を私たちは望む？ それをはっきりと、イメージできるかい？

想像する力が無い人なんていない。ホントは簡単な事だ。

自分のことだけじゃ足りない。地球の未来をキチンと考えなくっちゃ。だって今、地球レベルの汚染が生じているのだから。僕らが想像するその世界は、生命の存続を大きく担っているのだ。

どっちに転ぶのか、今はその瀬戸際だろう。

私たちは、このまま流れに屈してしまうのか、それとも、「想像」の力を使って新たな潮流を生み出すことができるのだろうか…。



子供の頃、絵本に書かれていた、天高く林立し
光を放つビル群と、そこから無数に伸びるハイウ
ェイ。腕に巻きつけた時計型の通信装置で互いの
顔を見ながら話ができる…そんな未来都市が、今
すでに目の前にある。それは間違い
なく、誰かが想像したから存在して
いるのだ。

今はまだ白紙の、私たちの手の中
にあるその絵本には、いったいどん
な未来が描かれるのだろうか。

死を意識することで見えて くるもの

ガンの奇跡的治癒が報告されている。『森下自然医学』2013年4月号に掲載された、社長の連載『「奇跡の生還」と「真実の自己」』にも書かれていたように、意識や価値観の転換が奇跡的な治癒をもたらすことが、少なからずあるのだ。同じことが我々の社会に対しても言えまいか。もし、社会の構成員である私たちの意識が変わったら、瀕死の地球も奇跡的に救われる可能性だってあるのではなかろうか。

では、どのように意識を変えたらよいというのだろう。それが簡単そうで難しい。みんながみんな、死に損ねて臨死体験するわけにもいかないだろう。しかし、もし、今自分が死んだらどうなるのか、そう想像することくらいはできる。そんなことだけでも、実は意識は変えられるのだ。かつて自分がそうだった。

1989年、バブル景気の真ただ中。長男の出産前に付き添いで行った産婦人科の待合室での事だ。たまたまTVのワイドショーで、松田優作死去の報を目にした。病を押してハリウッド作品に出演。アカデミー賞候補になるほど評価され死んだ彼は、きっとその間際、後悔など一つもなかったのだろう…。そう素直に思えたのだ。

「今自分が死んだら…、きっと後悔する。」その思いに突き動かされて、会社を辞め、死ぬときに後悔しない生き方を求めて工業デザインの道を志した。それが正しかったかどうかは分からない。ただ、少なくとも、こうしてまほろばだより制作

にかかわらせて頂き、書かせて頂いて、少しでも誰かのお役に立っているようならば、本望だ。

死を意識する以外にも、意識を変えるきっかけと

して、一般的には大きな事件や事故、天災、病気やけが等、突発的なトラブルがきっかけになることも多い。日常からポーンと切り離された時、突如として真理に目覚めるの

だ。ビートたけしや、地球村の高木さんなどバイクの事故がその後の人生を大きく変えるきっかけになったようだ。

意識の転換が生んだ奇跡

実は、今、苦しんでいる人こそチャンスなのだ。目の前の苦しみを逃れるためには意識の転換が必要であり、それさえできれば簡単に乗り越えられる場合すらあるという。先にあげた『自然医学』誌で社長が取り上げたアニータさんは、臨死体験をし「この世のすべては一つにつながっていた」「私たちは喜びを表現するためにこの世に生まれてきた」という深い悟りを得、「病気は自分が作り出した」事を知って、みるみる回復したようだ。自他の分離から、自他の一体化へと大きく舵を取り、病気すら自分の一部とみなす事ができたのだ。『自然医学』誌掲載後に、アニータさんの本が出版されました。『喜びから人生を生きる！—臨死体験が教えてくれたこと』アニータ・ムアジャーニ著 ナチュラルスピリット刊…書店にてお求め下さい

実はそれこそが、自然の法則ではなかったのだろうか。重大なトラブルを乗り越え、奇跡的な回復を果たした人の多くは、感謝の思いや生かされている喜びを感じ、日常の些細なことに幸せを発見するように大きく意識が変わってしまうことが多いようだ。いや、意識がそのように変わったからこそ、奇跡的な癒しが起こったとさえ言えるのかもしれない。



法則を応用する

アニータさんに起きた奇跡は私たちの日常でどのように応用できるだろうか。

例えば、対人関係で悩んでいるとしたら、目の前のその人と自分自身を重ね、自分も相手もひとつであると考えてみるとよい。そし



て、その人の嫌な部分が、実は形を変えて自分の中にもあると想像するのだ。もし自分の中にあるその何かに気づくことができたならしめたもの。相手を責める事は、実は自分で自分を責めていたのだと気づくだろう。その自分の嫌なところを責めることを止めてみる。もしかしたら、自分を責めるそのクセ自体も、いつかどこかで身につけてしまった無意識の防衛反応に過ぎないのかもしれないのだから…。そして、できない自分を丸ごと受け入れる。そのままでいいんだと、自分のことを許してみる。

すると、どうだろう。不思議なことに、あれほど嫌だと思っていた人の事が気にならなくなってしまふのだ。

奇跡の理由

これは不思議ではない。もしすべてが一つにつながっていると理解できるならば当然なのだ。敵とは己の中にあり、すべてが自分だと気づくことで敵はいなくなる。

“すべては一つ”というこの自然法則は、そのように身近な人間関係や問題解決に応用できるのだ。それが足元から平和を生み出す秘訣であり、奇跡が生じる理由でもある。国同士のいさかいだって根は同じ事だろう。

話がそれてしまったが、要は意識の転換によって、そのように自然界の法則に気づき、それを応用する事が、もう一つの鍵になるのではないか。

あらゆる問題を「ひとつ」という見方から考え始める時、おそらく、いともたやすく目の前の難問が氷解してゆくのだろう。

天に向かってはいた唾がまっすぐ自分の上に降りかかってくるように、今、起こっている災難は、すべて私たちの行いの結果だ。そして、それを解決できるのもまた、私たち自身なのだ。

心をゆるませてみる

できるならば、そんな苦難をしょい込む前に、この社会にも意識の転換が生じてほしいと願う。そのためには、まず私たち一人から始めることだろう。やがて多くの人の意識が変わるとき、おのずと社会も変わってゆくのではないだろうか。全てが一つなのだったら、目の前の社会もまた私たちの反映なのだから…。

まずは、現代人特有の頭で考えすぎるクセを改め、もっとゆったりとした気分で、「何のために生まれたのか」、「何が本当の幸せなのか」、「本当の自分とは何か」を、心で感じる事が大切なだろう。

自然を感じ、大きく深呼吸し、鳥や虫たちの声に耳を澄ませ、風に身をまかせてみる。すると、突然この世がそのままで天国だったことに気づくことさえあるのだ。

すべてがありのままで完全な調和の中にあり、私たちがその中で生かされているという気づき。

今、私たちはその天国の中で、互いに争い、傷つけあっているのだ。

秋の虫は、そう私たちに語りかけているように思えてならない。

(写真・文／編集部 島田 浩)

